

4 歳児クラス <5月 富嶽三十六景「凱風快晴」(赤富士)>



やさしいK-ART

テーマ《赤富士ワーク》

日本でもっとも知られた浮世絵師、葛飾北斎の
『富嶽三十六景 凱風快晴』通称「赤富士」
を描きます。

<テーマを決める>

最近、外国からの観光客がとっても増えています。
その外国人観光客の人たちに、日本で最も人気があるのが「富士山」です。
富士山は、日本でも昔から人気の山です。
この赤富士は、葛飾北斎によって約200年も前に描かれた作品です。

<問いを考える>

「葛飾北斎ってどんな絵を描いた人でしょうか？」
「富士山は何色をしている？」
「この雲は何雲でしょうか？」「季節はいつ頃だろう？」
「富士山の上の白い部分は何かな？」
「なぜ赤富士が赤いの？」「この絵の富士山の時間は何時くらいかな？」
「浮世絵ってなに？」

葛飾北斎が赤富士を描いた背景などお話をして、作品の奥にある状況や思いなどを感じながら富士山を描きましょう。

1. フレーム
2. プリント台紙
3. 赤富士パーツ
4. 糊
5. キットパス

(赤、しろ、オリーブまたは緑、
黒、ページュ使ってもOK)



<環境をデザインする>

「絵の要素をパーツ分けした材料に色付けをしていく」

三原色で学んだお米で作られたキットパスを使って、
葛飾北斎が描いた「赤富士」の模写をしていきます。
絵はフォルムが上手く描けないと途端に他の子たちと
比べて上手・下手という比較をしてしまいます。

きちんとそのフォルムが出せるようにパーツ化をして
いるので、子どもたちの想像を超える作品になるよう
な材料作りをしています。

4 歳児クラス < 5 月 赤富士 > 実施報告



5/20 《葛飾北斎：赤富士》

はじめに「葛飾北斎」の名前を口に出して言ってみました！赤富士の見本を見て「わぁ〜！」と歓声。そして、「噴火してるんだね！」「なんで赤いの？富士山って水色じゃないの？」との声があがりました。実際に富士山が赤く見られる時があること、富士山の麓にある森の木々を黒い点で表現できる、というお話もしっかり聞いてくれました。先月行った「側面塗り」で、緑(オリーブ色)、ベージュ、赤を使って表現。赤色は山のとっぺんまで塗らないことを意識しながら塗れました。

見本をしっかりと見ており、白で雪を描くこと、黒で麓の木(黒い点)も描けました。

富士山のパーツを貼り、自分の作品を額に入れると「わぁ！」「やったー！」と目を輝かせている子、照れた表情の子、などそれぞれが満足している様子でした。



5 歳児クラス < 5 月 富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」 >



やさしいK-ART

テーマ《神奈川沖浪裏ワーク》

に 浮世絵師、葛飾北斎。
日本で最も知られた浮世絵師、葛飾北斎。
ゴッホやモネにも影響を及ぼしました。
今回は空の色にこだわりました！

< テーマを決める >

日本のお金に描かれている絵ってどんな絵だろう・・・。

10,000円札の裏は、現在は東京駅、5,000円札は藤の花、1,000円札の裏には浮世絵。

この1,000円札に描かれている富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」は、「世界で最も有名な絵」と言われるくらい有名で、誰もが知っている葛飾北斎の作品です。

この作品は「静と動」のコントラストで自然の雄大さを描いていると言われます。そのため、遠くに小さくてもどしっと構えている富士山、そして手前に荒々しい波、船と人があることで遠近法で動きのある波はさらに激しく、遠くの富士山はいつも変わらず静かに感じます。

< 問いを考える >

○構図に関する問い

「今のお札に描かれている絵って知ってる？」

「この絵は見たことある？」「この絵を見て感じることは何か？」

「お札以外でどこで見たかな？」

「細かく見ると何が描かれているかな？」「この小さいものは？」「波の形はどう感じる？」



1. キャンバスボード 1 枚
2. 波パーツ 1 枚
3. タイトルパーツ 1 枚
4. 見本 1 枚
5. キットパス (ベージュ、グレー、白)
6. オレンジカップ (水大さじ 1 程度)
7. 筆
8. ベビーパウダー
9. ボンド



< 環境をデザインする >

「作品の一部を担うことで作品作りを通じて興味を持たせる」

子どもたちがこの作品を 1 から全て描いて完成させることは至難の業です。しかし、限られた時間の中で、一部を担うことで作品に興味を持ち、しっかりと観察をして、作品を完成させていくための材料を準備します。今回は「空」の色付けを担い、波や富士山がより際立つようにキットパスで塗っていきます。

「波と富士山と船と人」という細かい部分は貼る。

今回はハサミは使えないので、あらかじめ切っておいたパーツを貼って作品を完成させます。

5 歳児クラス <5月 神奈川沖浪裏> 実施報告



5/20 年長：12名《葛飾北斎：神奈川沖浪裏》

見本を見せると「わあ!」「すごい!」「見たことある!!」と今回もとてもよい反応。「波は大きいのに、なぜ富士山は小さいの?」という問いには「遠くにあるから!」とすぐに反応があり、遠くのは小さく、近くのは大きく見える「遠近法」についても、自然と感じ取っている様子でした。また、激しい動きの大きな波と、静かに構える富士山の対比についても真剣に聞いていました。さらに、千円札の裏面にも同じ絵が描かれていることを伝え、実際に千円札を見てもらうと「ほんとだ!」「すごい~!!」と興味津々な姿が見られました。制作では、キットパスを側面塗りしたあと筆に水をつけて横方向に伸ばす技法に挑戦。ポイントをしっかり押さえながら、落ち着いて丁寧に筆を動かし、雰囲気のある空の色になりました。波の白い部分や富士山の雪、さらに雲や波しぶきも描き込み、それぞれ迫力ある作品に仕上がりました。完成した自分の作品を満足気に眺めており、「今日持って帰れるんだよね?」と何度も確認する姿も見られ、満足感や達成感を感じている様子でした。

